

女性の手に 委ねる食糧



United Nations
World Food
Programme



国連世界食糧計画は、
世界最大の人道支援機関です。
人々の生命を守ること、
飢餓を撲滅することを使命としています。

女性を中心的な役割を果たします。

飢餓撲滅の鍵は、1人の少女の手中にあるかもしれません。彼女の左手には、ボール1杯の米があり、そして右手には学校の教科書があります。十分な栄養と継続的な教育、とりわけ女子への教育は8億人という飢餓人口へのより輝かしい期待の門戸を開くことになります。

国連世界食糧計画（WFP）から食糧援助を受ける受益者は毎年平均して8千万から1億人おり、その半分以上を女性や女子が占めます。また、女性や女子はHIV/エイズが原因で苦しむ、表立たない多数者でもあります。この流行病は、病人の世話ばかりでなく家族を養うという形で女性の負担を増やしています。彼女たちは感染しやすく、しばしば安全な性交を主張できず、家族を養うために売春を強いられます。食糧援助はこの重荷を軽減させます。

WFP事務局長のジェームズ・モリスが述べるように、私たちは今、ジェンダーの平等に向けて大きな一歩を踏み出さなければなりません。つまり、教育、保健衛生、土地、情報、そして女性の声に耳を傾けられる権利への平等なアクセスを女性が持つことを確実にすることです。WFP食糧援助は、飢餓から解放される子ども世代が成長する機会と同様に、こうした平等へ向けた前進へのステップを提供します。

WFPの女性および女子への援助



女性は家庭の中心的存在です。日々、家族の世話をする一方で食べ物を作り準備するのは彼女たちです。家庭内で女性が食糧生産に関わる率は、アフリカでは70から80%、アジアでは65%、ラテンアメリカでは45%におよびます。食糧を女性に委ね、彼女たちに社会的経済的スキル構築の機会を提供することは家庭全体に利益をもたらします。

WFP食糧安全保障の目標は、女性の負担を増大させずに能力を高めることを包含します。女性が攻撃や搾取の対象となりやすいことを考慮し、以下の条件によって彼女たちの家族がきちんと食事をとれる傾向になると考えています：

- ・ 食糧援助物資の配給に女性が参加すること
- ・ 配給がいつ、どこで実施されるかと同様に、与えられる権利のある食糧援助について女性たちに情報が届くこと
- ・ 女性たちの名義で食糧受給の権利を受け、配給の受給者も彼女らが決めること

WFPは保健衛生、栄養、そしてHIV/エイズ予防に関する知識を広める一方で、妊婦や乳児を育てる女性たちの栄養面での需要を満たす

ネパールにおいてWFPは妊婦や乳児を育てる女性たちに対して、子どもが6歳になるまで7kgの栄養補強食糧を家庭へ支給します。栄養、保健、母体の安全について、衛生、そしてHIV/エイズについての情報と同様に女性たちは駆虫効果のある錠剤を受け取ります。類似した取り組みはインド、北朝鮮、そしてモザンビークでも行われています。

教室での男女間格差をなくす

今日、世界の10億人の子どもが小学校へ通えません：そのうちの3分の2が女子です。男子兄弟に比べて女子は、4年間の教育期間を終了する前にドロップアウトする傾向が強いです。開発途上国における女性の半数は読み書きができません。

家族がお腹をすかせている時、食糧を見つけることは重要な問題です。最も絶望的な場所ではそれが子どもたちのフルタイムの仕事となります。食糧を探すことに巻き込まれないとしても、家事をするのは、たいてい女子です。教室での男女間格差をなくすために、WFPは1980年代に、農村の貧困家庭への持ち帰り食糧として、4リットルの油の配給を始めました。近年においてWFPは、各月最低20日間学校へ通う女子をもつ家庭へ持ち帰り食糧支給を27カ国で提供しています。カメルーン北部では、学校へ通う女子の割合を3倍に増やしました。



**「少女たちがオイル缶を抱き
かかえます。－彼女たちの
意気揚揚とした様子がうか
がえるでしょう。」**

スサナ・リコ
アフガニスタン事務所代表

ボリビア教育を支えるための食糧

「もしWFPの朝ごはんがなかったら、私たちの両親は私たち一特に妹と私を学校へ送り出してくれなかったでしょう。」ルス・エリアナ・ヒメネス・エスペッホは南部ボリビア、ポトシのアトーチャ鉱山町にある小学校5年生の時に初めてWFPの食糧配給を受け取ったときのことをはっきりと覚えています。先生は生徒たちにコップとお皿を学校へ持参するよう伝えました：「それはとても大きな助けでした。なぜなら、我が家も含めて町中の家族はとても貧しく、学校で得られる2度の食事だけがその日の糧となっていたからです。」と、彼女は言います。ルスの父は鉱山労働者でしたが、家族を養うに十分なお金を稼ぐことができませんでした。国家計画を通してボリビア政府による協力のもと実施された学校での朝食配給は彼女らの生命を救い、教育を通じて将来への道を築きました。現在、ルスの兄は大学を卒業し、ラ・パスのコンピューター店を営んでいます。ルス自身と彼女の妹は会計学を勉強中です。



職業訓練と同時に行う食糧援助の成果

バングラデシュにおいて、WFPは70万人の貧しい農村女性と思春期の女子に対して、毎年読み書き、計算、そして所得一般スキルの訓練と同様に、保健、栄養、そして法律上の権利についての意識を高めるために、食糧援助を行っています。

バングラデシュ女性への投資

ショナバヌは現在40代半ばで、若い頃に従兄弟と結婚しました。4人の息子と2人の娘がいます。彼女の夫は、日雇い労働者として働きますがほとんど収入がないため、彼女は2食付のメイドとして長期にわたり働きました。1990年代初め、夫が健康を脅かされ仕事ができなくなった時、ショナバヌの人生はさらに厳しいものとなりました。彼女は子どもたちに教育を受けさせるために支援を求め、WFPが支援するバングラデシュ政府の弱者グループ開発プロジェクトのも援助対象となりました。ショナバヌは7日間にわたる養鶏のコースを受講後、14羽の鶏を買うローンが与えられました。10ヵ月後には80羽の鶏を所有するまでになり、最初のローンを返済することができました。翌年は、野菜同様にヤギや牛を飼育するための活動へと拡大する訓練やクレジットをより多く得ました。ショナバヌは現在、十分な収入があります。



姪の結婚式について、彼女はこう言います。「以前だったら一杯のゴハンと引き換えに、スパイスを引かせるために親類は私を呼びました。しかし今は、私に命じることはありません。私が命じるほうになったのです。私は頼られています。彼らは私を招待し、そして客としてご馳走をしてくれます。なぜなら今、私にはお金があるからです。」



女性による食糧援助コントロールの強化

かつて食糧を得る際に問題が生じていた、ウガンダの一夫多妻家族出身の難民女性は今、自分たちと子どもたちとの配給カードを別々にして登録しています。誰が家庭の頭であるかにかかわらず、世帯毎の食糧配給を女性に行うことは彼女たちの食糧のコントロール力を高めることになりました。そしてこれはWFP全体の食糧支援のモデルとなりました。女性名義による家庭への食糧支援はスリランカ、ルワンダ、中央アフリカ、コンゴ、そしてシエラレオネにおいて実施されています。

女性が食糧配給を受け取ることを考慮し、ウガンダでは、より少量の食糧の配給単位（50kgにかわり25kgのバッグを使用）を採用するプロジェクトがスタートしました。これはHIV/エイズの女性にとって特に重要です。

多くがなされなければなりません、一女性たちの毎日の仕事にあらうとなかろうと、災害や紛争の犠牲者にあらうとなかろうと、そしてHIV/エイズの感染危機にあらうとなかろうと—WFPは絶え間なく女性の負担を軽減する方法を探しています。

女性のエンパワメント

4ヵ月前メアリー・シバンズは早魃被害が大きいスワジランドの地域ロカイザで、WFP救援委員会（RC）構成員13名の一員に選ばれました。それ以来、メアリーは、重い食糧の入った袋を持ち上げ、配給の場や、しばしば汚く、熱い状況の中で懸命に働きました。家々を回り、配給の受給者を見極めることもまた彼女の仕事でした。しかし、メアリーはこの上なく幸せでした。彼女はこう言います。「選ばれることは光栄です。私はこの仕事に従事することを誇りに思います。なぜなら、コミュニティが私を正直で信用できると、表してくれるからです。」

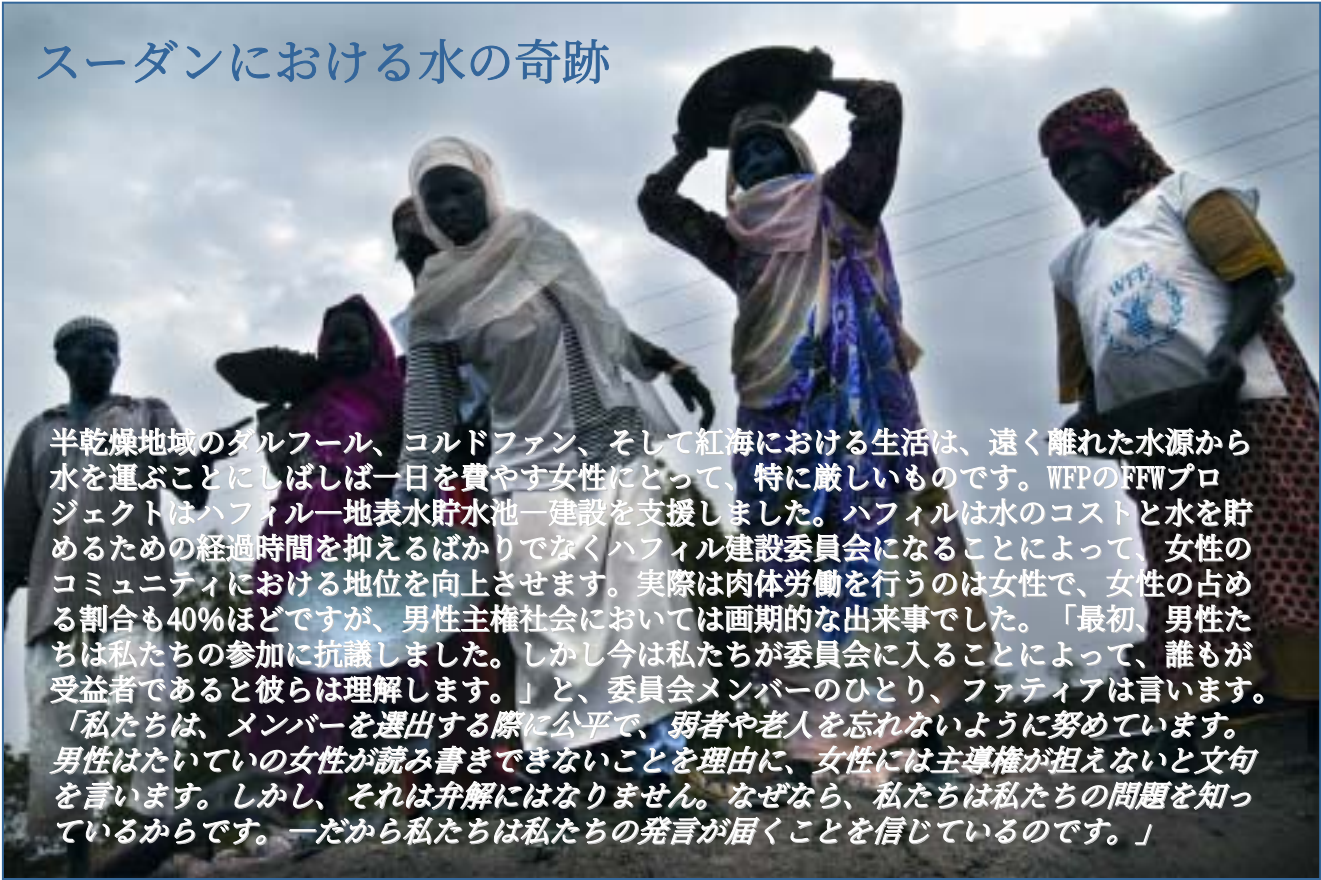
RCのメンバーは自らが受益者であり、忙しい仕事に価値があると言います。同メンバーのビューティ・シャンゲースはこう言います。

「私たちは私たち自身のためにも働いているのです。」この10年間に形成されたコミュニティは、前もって食糧配給の日取りについて知らせています。女性の地位が伝統的に低い国における食糧に関する意思決定権の保有は重要です。



食糧配給における女性の役割と資産創出のための委員会

サハラ以南のアフリカの多くの国々では、食糧配給委員会の60%を女性が構成しています。そして、多くの場所で主導権を持つポジションの半分を担っています。このことは効果的な目標を確実にすることと同時に、意思決定における女性の役割を増大させました。グルジアにおいては、他のCIS諸国と同様に女性は資産創出のための委員会に実質上包含されています。そして、フード・フォア・ワーク（労働の対価としての食糧援助/FFW）プログラムに関する選抜やマネジメントについて発言権を有します。



スーダンにおける水の奇跡

半乾燥地域のダルフル、コルドファン、そして紅海における生活は、遠く離れた水源から水を運ぶことにしばしば一日を費やす女性にとって、特に厳しいものです。WFPのFFWプロジェクトはハフィルー地表水貯水池一建設を支援しました。ハフィルは水のコストと水を貯めるための経過時間を抑えるばかりでなくハフィル建設委員会になることによって、女性のコミュニティにおける地位を向上させます。実際は肉体労働を行うのは女性で、女性の占める割合も40%ほどですが、男性主権社会においては画期的な出来事でした。「最初、男性たちは私たちの参加に抗議しました。しかし今は私たちが委員会に入ることによって、誰もが受益者であると彼らは理解します。」と、委員会メンバーのひとり、ファティアは言います。「私たちは、メンバーを選出する際に公平で、弱者や老人を忘れないように努めています。男性はたいいていの女性が進み書きできないことを理由に、女性には主導権が担えないと文句を言います。しかし、それは弁解にはなりません。なぜなら、私たちは私たちの問題を知っているからです。一だから私たちは私たちの発言が届くことを信じているのです。」

主張

現在エジプトにおいて、政府はWFP支援による土地定住計画の中で、女性（未亡人および主婦）への土地配分を実施しています。これは農村の女性に権利を与え、彼女たちの経済的な安全を増幅させました。ボリビア、グアテマラ、そしてペルーでは同数の男性と女性から成る委員会はジェンダー問題について訓練中です。焦点はコミュニティ内の意思決定と、食糧に関する女性の中心的な役割です。



WFP女性職員の増員

他の機関と比較してみても、WFPは、特に評価やモニタリングにおいてより多くの女性の参加を求めます。また同時に、WFPは着実に国際的な専門職員の数を増やしています。18%であった10年前よりも増員し、現在では40%が女性職員です。

「WFPは、特に飢餓を減らし、食糧安全保障を確立する上で女性が重要な役割を果たすようになって以来、女性のエンパワーメントおよびジェンダーの平等性を強く主張しています。私たちは私たち自身がジェンダーの平等に向けて大きな一歩を踏み出さない限り、国連のミレニアム開発目標を達成できないと確信しています。」

WFP事務局長
ジェームズ・T・モリス



For more information on
WFP's Gender Policy
please visit our website:
www.wfp.org



World Food Programme

Via Cesare Giulio Viola, 68/70 - 00148 Rome, Italy

Tel.: +39-066513-2628 - Fax: +39-066513-2840